

## 2024年度第2回例会

日時 10月5日(土)14:00~16:00  
会場 ウイングス京都  
講師 萩原幹花氏  
講演 「海外への挑戦～アメリカ編～」  
出席者 10名

今回の支部例会では、第1回例会でのお話が大変興味深かった萩原幹花氏に引き続いて講演をお願いしました。萩原さんは2023年度JAUWの若手女性科学者海外研修助成事業に採択され、京都支部へ新入会員としてお迎えした若手研究者です。マステイング現象(\*)を研究課題に九州大学大学院理学研究院・日本学術振興会の博士研究員として活躍されています。

本日は「森林に於ける香りを介した植物間コミュニケーション」の先行研究について興味深いお話を伺いました。ブナを対象に研究を始めた大学学部生時代から、昨年秋のアメリカでの調査・研究までの経験談を聞きながら、彼女の前向きで積極的な姿勢、みんなに愛される親しみやすい人柄に深く感動しました。



三ヶ月間の滞米中は、場所によって異なる研究手法を学ぶことを目的に、アメリカの研究者の調査に同行して4カ所の大学を訪問されました。コーネル大デービス校では、同じ草原にあっても香りが違うセイジブラシの調査、コロラド州立大では、ロッキー山脈で松の種子の生態調査、オハイオ州立大では、シードトラップ(袋)に入るブナの種子の数の調査を行われました。

講演後は「マステイングの周期は?」「香りの分析は機械でも?」など活発な質疑応答が続きました。

### (\*)マステイング

樹木等の植物の種子や実の結実状況が一定の空間スケールで同調しつつ、数年おきに大きく変動する現象。日本のブナ林やミズナラ林等でも観察されている。捕食者が食べきれないほど豊作にすることで、種子の生存率や受粉効率を高めたりする効果がある。



「アメリカでは発表者側がもてなしをして発表するのが習慣になっていますので」とカヌレを持ってきて下さり、美味しく頂きました。